

一救入魂！！！！

大東消防署救急隊 消防士長

岡村 絢也（平成21年入職）

悲しい思いをさせたくない

私が消防士を目指したきっかけは父親の病気でした。現在は救急救命士制度があり、救急車には、救急救命士が乗車していますが、父親が倒れた当時は、制度が施行される前で、救急隊員による応急処置は行われず父は重篤な状態になったと母から聞きました。今は制度があり助けられる命を救う事が出来る時代になってきました。救急救命士になり私の家族のように悲しい思いをする人がいなくなるようにと思い消防士を目指しました。



自身への挑戦



拝命されてから救急隊一筋で活動させて頂いております。夢であった仕事を実現して毎日が充実していて感謝の気持ちでいっぱいです。…とはいっても、仕事の内容からすると、救急現場というのは、そこに不幸な人がいるのですから喜びばかりではありません。私達にとって救急出場することは日常でも、救急要請される殆どの方が、一生に一度あるかないかの出来事です。私が患者さんに接する時に心がけている中の一つに、「患者さんの思いに寄り添うこと」があります。救急活

動の時間は数十分、その短い時間の中で寄り添い、患者さんのことを考えて行動することで、この人なら大丈夫という安心を与えることができると考えています。事案の内容に関わらず、全ての人に平等な市民サービスを提供すること、それは自分自身がさらに成長し続けていくために必要な自身の課題だと思い、日々取り組んでいます。

すべてに感謝

私は、消防士になるまで少し時間がかかりましたが、それまで勤めていた会社の方々や友人、そして家族に応援してもらい応えることが出来ました。消防士になるまでの経験や、出会った人々は人生の宝です。自分一人の力で消防士になれたとは思っていないですし、遠回りしたとも思っていません。いつも職場に、先輩に、お世話になっている人に応えたいと思い頑張ってきました。それが恩返しであり、感謝だからです。現在も変わらず、感謝の気持ちを忘れることなく仕事で返していきたいと挑戦し続けています。

消防士を目指している皆さんは、今、学生、社会人と様々な立場で挑戦されているかと思います。採用試験に挑む上で集中できない状況だとしても、今ある環境の中ですべきことも頑張ってください。その苦労は決して無駄にはならず、将来必ず大きな力となり人間力の向上につながるはずです。その力が人命救助に役立つ日が来ると、私は信じています。

